

資料 1

海の観光拠点整備基本計画（案）へのパブリックコメントの実施結果について

- | | |
|------------|-------------------------------|
| 1 実 施 期 間 | 令和5年12月27日（水）から令和6年1月24日（水）まで |
| 2 意見及び提案者数 | 5 人 |

4 意見等の内容

番号	該当内容	意見等の内容
1	周辺での取組	整備拠点の場所の御来屋漁港に直接ではなく関連した要望になるのですが、西坪海岸の周辺環境整備についてです。 展望台は日本海が一望できる絶景ビューとなっており、年間を通してサーファーも波乗りを楽しんでいます。遠方からの観光客はそのまま砂浜を降りて波打ち際で日本海を堪能しています。展望台の中には通称ハート岩の花壇も設置されており夏場の夕暮れ時には若いカップルも夕日を楽しんでおられます。地元民も散歩など健康づくりの場にもなっています。動線的にも山陰道名和 IC から道の駅～風見鶏～山陰最古の駅舎「御来屋駅」～西坪海岸展望台の観光ルートとなっており、そこから御来屋漁港への展開もあるのではないのでしょうか？ 地元では展望台の整備以降年間 5 回海岸清掃を実施しており、護岸道路付近の草刈りや海岸の漂着物の収集を行っております。町道沿いには駐車場があり、観光客の車で立ち寄りもしやすく、平日には昼休憩で車を止めて食事をされる方もいます。 しかし、近年は「とべら（雑木）」と思われる樹木が繁殖して、付近の景色を邪魔しており以前は駐車場に車を停めた状態でも日本海が見られていたのですが、今はすっかり樹木の壁となってしまっています。 以上のことから今回の整備事業の一環として伐採ができないかというお願いです。地元住民も高齢化しており海岸清掃時での対応にも限界がありますが、伐採後の木の処分等行政とタイアップする方法を検討もしていただけたら助かります。
2	施設設置 周辺での取組	I お魚センターみくりやの整備について (1) 観光及び日本海沿岸でのサーフィンを中心に訪れる方達に利用しやすい施設とすること。 (2) 簡易版有料ゲストハウスの設置。 (3) 屋外の有料コインシャワー機の設置 II サーフィン目的で訪れる人に対して (1) 名和川西の日本海沿岸駐車場及び進入路の舗装。 (2) 西坪海岸展望駐車場西側の空き地を駐車場として活用。 III お魚センターみくりやへの誘導看板設置 (1) 駐車場へのお魚センターへのマップ、設備利用料看板 (2) 利用者に対する協力金募金箱の設置。

番号	該当内容	意見等の内容
3	計画 事業実施方法	計画（案）を出されたことを評価します。まずは、昭和の御来屋の歩みを思い出してはいかがでしょうか。御来屋の店に出掛けていましたが、現在は空き家が多くなっているとか。まずはこの半世紀にどのように地域が変貌し、原因は何かを徹底追及することが不可欠です。 観光は客が楽しむエリアです。浅草や道頓堀がよくメディアで取り上げられます。首都や水の都であることも大きいですが、地元の人々の楽しい繋がりや伝統的な地域の文化の魅力が存在し、そこに景観や交通の便、メディアの協力があって知名度が加味された結果です。大山町住民の集落ごとに御来屋観光・漁業について、推進者の方を交えて話し合いを進めることを提案します。
4	計画 配置施設	海の観光拠点を整備することは賛成。ただし、多額の税金を投入するからには、費用対効果を十分に検討する必要あり。また実現性のある計画を検討する必要あり。このような観点から、現実の計画案に対して、次の意見を提言する。 (1) シャワー更衣室はランニングコストも必要であるほか、売り場面積等の圧縮にもなる。19項に「海のアクティビティを本施設で提供しない方向で設定」とあるが、漁港であることを考慮すれば当然の結果だと思う。アクティビティを提供しない以上、利用者が極少数になると見込まれるため「シャワー・更衣室」は不要ではないか。 (2) 「海のアクティビティを本施設で提供しない方向で設定」とすれば、本施設に観光客を呼ぶためには食事の提供や水産物の提供の充実が必要であり、レストランやショップを充実することは賛成。ただ、「夕日」という観光資源を生かして観光客を集客するため、また、夕食を提供する施設が御来屋へほとんどないことへの対応のため、レストランの営業時間を夜8時くらいまでとしてはどうか。 (3) 日本あるいは海外において、登山と他の観光をセット（例えば、登山の後の温泉など）して集客しているところがあるが、本施設を生かすため、例えば大山登山後に中山温泉で入浴し、その後、みくりやで夕日を見ながら食事して宿泊は大山寺といったような海と山を結ぶ観光事業を開発してはどうか？

番号	該当内容	意見等の内容
5		(1) 『背景・目的』と『基本計画』案は無難であるが、説明会での提案意見の拾い上げ方と整備計画への取りまとめ方が、やや旧来的で、現代感覚を欠いていると感じる。地元の御来屋の施設関係者と漁業関係者に対する配慮（当然必要ではあるが）が全体の基調になり過ぎ、“大山町全体として力を入れて取り組む意義”や”周辺と一体化する観光戦略による全体的効果“のアピール力が弱まっているように思われる。地元への配慮<u>説明の多過ぎ</u>は、少し離れた地区の共感を削ぐことになるのでは？ (2) “<u>海の観光拠点</u>がハブとしての機能を担い、<u>海側の観光振興や町内周遊観光を促す</u>”という基本目標は素晴らしいと感じるが、それを“周辺での取組も併せて行うことが必要。＋「御来屋周辺の空き家活用」「周辺でのアクティビティ提供」など本施設以外での海側の観光振興に貢献する施策展開などが必要”と重ねて表現している点も、当地区再整備の展開イメージを小さくしているようで残念に思われる。 例えば、“周辺を含めた観光振興の更なる展開との呼応が必要。＋「空き家の活用や斬新的アクティビティの創出」という表現にし、“御来屋の空き家”だけでなく周辺を含む空き家活用やアクティビティ創出との連携“の意図（狙い）を含めた表現にしないと、『背景・目的』と『基本計画』の主旨とズレしてしまうのではないかと。 (3) 「年間3万人を超える集客＝観光資源」「“海側の観光振興”の課題解決」という捉え方は、もう少し、焦点をはっきりさせ、取組の基本方向の補強にすべきでは？例えば、意見交換会の際にも意見が出ていた「美保湾の夕景の素晴らしさ」や「美保神社との海を挟んでの近接性」「隠岐の島と大山、名和神社という“歴史的風土景観”の観光資源的価値」等の提案が、拾い上げられていないのは大変残念に感じる。大風呂敷の構想のように映るのはよくないが、方向性として考え方に自信を持ち“社会状況と観光市場ニーズを確認しつつ展開させる”などの表現で、<u>着実に取り組む姿勢を示す（確約はしない）</u>ことが大切ではないかと思われる。 海や水運を観光に採り入れている近県の実例も参考になると思われる。その一つは、徳島市の“ケンチョピアの取組”で、市内の中心市街地を巡る堀川のプレジャーボート係留施設整備の後に、有志のNPOの水上タクシー（ライドシェア的）運行で、“阿波踊り観光のブランド化”の側面支援に貢献している。10年以上の実績。 もう一つは、しまなみ観光（愛媛と広島）に“定期船で自転車＋船旅”の企画で、経営困難化したフェリー運営の再生と観光活性化で注目されている。